

# 平成 27 年度事業報告

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

## 【概況】

当法人は、昭和 39 年 1 月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

本年度も禅文化の普及に努め以下の活動を行なった。

禅文化の普及事業（公益目的事業）では以下の活動を行なった。

調査研究活動では、中国禅宗史・禅語録研究班をはじめ各研究班が従来通りの研究を継続、成果としての刊行にむけての作業を進めている。

資料収集・資料公開活動では、デジタルアーカイブスとして禅宗寺院が所蔵する文化財を電子データとして記録し保存する事業を本格化し、一般寺院所蔵の宝物のデジタルアーカイブ整備事業も進んでいる。27 年度は東京都麟祥院や静岡県方広寺などの所蔵品の悉皆調査を行なった。

広報・普及活動では、公開講演会や、様々なメディアを利用して禅文化の普及に努めた。書籍等の刊行として『荊叢毒蘂』、『白隠禅師年譜』や『2016 年禅語こよみ』などを刊行した。

収益事業では、宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売やサポート、臨済宗や他宗派の宗務所管理システムの機能追加への対応や保守サービスなどを行なった。

共益事業では、遠諱事業を中心とした臨黄合議所関連の業務を行なっている。

なお、花園学園の呼びかけにより、当法人と花園大学や妙心寺派教化センター、妙心寺古文化研究所などによる臨済宗関係研究機関合同会議が発足した。今後、調査・研究・実践の各分野での相互連携を進める予定である。

## I. 禅文化普及事業（公益目的事業）

### 〈1〉 調査・研究活動

#### 1. 中国禅宗史・禅語録研究班

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行なわれている。

## 唐代語録(『祖堂集』)研究会〔班長 西口芳男〕

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと 52 年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に 40 年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』(国際禅学研究所報告第 8 冊、2003 年)として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

今年度は、巻十の安國和尚全十三則の第十則より読みはじめ、長慶和尚全三十則の第二三則までを読み進んだ。また『祖堂集』巻十訳注(一)として、玄沙和尚章十八則、長生和尚章十則、鵝湖和尚章六則、大普和尚章三則、計三七則の訳注を行ない、『禅文化研究所紀要』第三十三号(2016 年 3 月 31 日発行)に掲載した。

研究会の開催日は、2015 年 4/24、5/8、5/22、6/12、6/26、7/10、9/25、10/9、10/23、11/13、11/27、12/11、2016 年 1/22、2/12、2/16。

班員：衣川賢次(花園大学教授)／川島常明(大通院住職)／松岡由香子(花園大学非常勤講師)／千田宗琢(花園大学非常勤講師・正眼短期大学講師)／久保讓(花園大学科目等履修習生)／古勝亮(京都大学博士後期課程)／鈴木洋保(花園大学非常勤講師)／鈴木史己(京都大学博士後期課程)／土屋昌明(専修大学教授)／小川太龍(花園大学非常勤講師・常楽寺)／橋本和雄(国際禅学研究所研究員)／小宮山祥広(仏楽学舎)／吳進幹((杭州佛学院からの留学生戒法法師)／竹田治美(奈良学園大学人間教育学部准教授)／雷漢卿(四川大学：文学与新聞学院教授)／王静(河南師範大学：皇学館大学客員研究員)／張黎(千葉大学：言語教育センター)／佐々木淳哉(花園大学大学院仏教学専攻)／保子昌徳(花園大学大学院仏教学専攻)

## 『神会語録』研究会〔班長 西口芳男〕

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来の校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。

今年度は、休会となった。

班員：衣川賢次(花園大学教授)／中島志郎(花園大学教授)／北島利信(花園大学非常勤講師)／松岡由香子(花園大学非常勤講師)／千田宗琢(花園大学非常勤講師・正眼短期大学講師)／久保讓(花園大学科目等履修習生)

## 『景德伝灯録』研究会〔班長 西口芳男〕

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全 30 巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。

今年度は、巻十六・巖頭全豁章全二六則を読了し、巻十七雲居道膺章全三六則の三十則まで進んだ。

研究会の開催日は、2015 年 8/2、9/26、11/28、1/5、3/26。

班員：衣川賢次（花園大学教授）／松岡由香子（花園大学非常勤講師）／千田宗琢（花園大学非常勤講師）／久保護（花園大学科目等履修習生）／三浦國雄（大東文化大学教授）／土屋昌明（専修大学教授）／下定雅弘（岡山大学教授・北京事務所長）／末木文美士（国際日本文化研究センター教授）／齊藤智寛（東北大学準教授）／石野幹昌（名古屋大学大学院博士課程）／石井修道（駒澤大学教授）／小川隆（駒澤大学教授）／須山長治（駒澤大学非常勤講師）／中木 愛（龍谷大学専任講師）／古勝亮（京都大学博士後期課程）／橋本和雄（国際禅学研究所研究員）

## 2. 禅宗經典研究班

禅文献に関わる經典類のうち、これまで未開のものについて独自の研究を進めると共に、臨済宗で常用される經典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。

### 「楞伽經」研究会〔班長 常盤義伸（花園大学名誉教授）〕

禅文献と深い関わりをもつ『楞伽經』研究は、学界の未開分野とも言われ、長い間、十全な研究がなされてこなかったが、常盤義伸教授は、『楞伽經』四卷本を基に、南条文雄博士校訂梵文を再構成し、世界で初めて完全英訳・和訳を成し遂げた。

本研究会は、常盤義伸著『楞伽宝經四卷本の研究』をテキストとして、梵本と求那跋陀羅三蔵の漢訳本を対比しながら読み進めている。

本年度は不十分に終わった卷一卷を再度読み直し始め、卷一第2段より卷1 2段まで読了した。

研究会の開催日は、2015年 4/27、5/25、6/22、7/27、9/28、10/26、11/30、12/21、2016年 1/25、2/22、3/28。

班員：西口芳男（禅文化研究所）／小嶋孝（東洋大学大学院哲学専攻・仏教学専攻博士前期課程終了）／種村辰男（塾講師、FAS協会会員）／嶋本浩子（日本経済大学神戸三宮キャンパス非常勤講師）

### 臨済宗經典研究〔班長 西村恵学〕

現代の臨済宗で常用されている經典について、その声明や経本を中心に整理し、現代人に受け入れやすいものを考え、一般に普及するような方策を考慮して制作する。

## 3. 哲学研究班〔幹事 森 哲郎〕

平成27年度も、「大蔵会」としての仏典研究会を上田閑照先生の指導のもと年4回ほど開催した。長期に渡る「華嚴五教書」の講読研究完了(平成24年2月24日)の後は、新たな仏典研究会として、世親の『唯識三十頌』の講読研究をほぼ1年間継続し、その読了後は、『成唯識論』に取り組んでいる。チューターは大井和也氏が務め、5月24日、8月30日、12月13日、3月5日の4回、実施した。参加者は十数名であるが、各自熱心にとり組んでいる。

なお同じく上田先生の指導のもと、西田哲学研究会と西谷研究会も各通年4回の頻度で継続している。西田哲学研究会では、目下、主著の『働くものから見るものへ』に取り組んでいる。西谷研究会では、夢窓国師の『夢中問答』を輪読した後に、西谷先生の後期の作品の講読研究として、目下、『禅の立場』に挑戦中である。

#### 4. 日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。班員は所員を中心としたメンバーで構成する。

##### 『寂室語録』研究〔担当 能仁晃道〕

永源寺開山寂室元光禅師の語録の訓読、注釈、意識を行なう。底本は、永和三年に印行されたと思われる天理図書館所蔵の五山版。

今回の訓注は天台学・禅学双方に造詣の深い天台宗智教寺住職佐々木陵西師が中心となって作成作業を行なっていたが、佐々木氏が病気による長期療養のため、能仁が引き継ぎ作業を行った。今年度で校正もほぼ終了し、平成28年7月に『訓注永源寂室和尚語録』（全3巻）として刊行する予定である。

##### 『延宝伝灯録』研究〔担当 阿部理恵〕

日本の禅僧・居士ら約千人の伝記を、卍元師蛮が撰述した『延宝伝灯録』の訓注作業を行なう。本書は江戸時代までの日本禅僧の伝記の集大成として位置づけることができるが、歴史学の成果に加えて難解な禅語の知識が不可欠であったため、従来訓読等が刊行されたことはなかった。現在、全文を読み下し文とし、注釈を付す作業を継続中である。

##### 『白隠』研究〔担当 芳澤勝弘〕

白隠禅師の語録『荊叢毒蘂』の訓読文および現代語訳、事項注釈について継続検討を行なった。その研究成果として平成27年4月に『白隠和尚荊叢毒蘂』乾坤を刊行した。『白隠年譜』についても継続研究を行ない、平成28年3月に『新編白隠禅師年譜』を刊行した。

##### 江湖開山語録研究〔担当 能仁晃道〕

臨済宗各派寺院の協力により、開山・中興開山等が残した語録類を整理し、訓注を行なう。本山以外の寺院に残る語録類の訓注は、殆どなされておらず、日本禅宗史上重要なものが多い。現在、妙心寺派平林寺中興開山鉄山禅師の語録『懶斎集』を読み下し文とし、注釈を付す作業を継続中である。その研究成果は遠諱記念として平成28年度に刊行する。

#### 5. マルチメディア研究班〔班長 西村恵学〕

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。平成27年度には、禅のこころを生かしたミニ・カレンダーである「2016年禅語こよみ」（霊源慧桃禅師画賛）を刊行したほか、坐禅会で使用できるオリジナル「禅の葉」を発行した。

また、京都国立博物館での特別展「禅一心をかたちに」に合わせて実施する「春の京都禅寺一斉拝観」の専用ホームページ（<http://zendera.info>）を公開した。スマートフォンアプリ「京都禅寺巡り」にも特別公開情報を登録し発信した。

## 〈2〉資料収集・資料公開活動

### 1. デジタルアーカイブス

禅の文化として大切に遺されてきた書画を中心としたアーカイブを、劣化しないデジタルデータとして保存していくことを目的とする事業。一応のデータ収集までに概ね7年を

目途として活動している。

将来的には、以下のような事業を通して蓄積した画像と資料に基づいて、「禅文化財WEB博物館」（仮称）を制作し、国内外にバーチャル博物館として、禅の文化財を紹介していく事業として展開したい。

#### **「禅の至宝」(文化財目録整備事業)**

各派本山や、文化財を多数所蔵する由緒寺院の宝物を、保存性や再現性に優れた電子データで記録し利用するための「デジタルアーカイブ 禅の至宝」を、23年度から運用開始。協力の得られた寺院に撮影に出向くなどして、絵画・墨蹟類を中心にデジタル写真に撮影しデータベースに保存している。また同時に、専門分野の学芸員に依頼してそれらデータの目録情報を入力。平成27年度には、昨年度より継続中の東京湯島麟祥院の悉皆調査を行なった（調査完了）。また、大本山方広寺の所蔵品悉皆調査も2月より開始し、来年度に向けて継続調査を行なう。なおこれらのデジタルアーカイブス調査は、花園大学歴史博物館と強く連携して活動している。

#### **一般寺院什物データベース**

①に連携するために優品を有する寺院所蔵の宝物のデジタルアーカイブ整備事業として、簡易なデータベースを内部で開発構築し販売を開始しているが、上記の文化財目録整備事業における調査を行なった当該寺院に、このデータベースシステムの利用を促し、所蔵品のデジタル画像と目録のデータベース化を推奨し、データ入力を完了した状態で納品している。平成27年度には、甲斐の恵林寺および、野火止の平林寺のデータを整理中。

## **2. 資料の収集・整理・公開**

#### **資料室所蔵品の整理・公開(利用)**

当法人がこれまで収集してきた37,000点にのぼる文献資料のうち、未整理分を当研究所で開発した資料管理ソフトを用いて今年度は299冊を入力した。オンライン蔵書検索への対応も検討中。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれており、これらの閲覧も、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放した。今年度の購入冊数55冊。

#### **WEB版所蔵墨蹟展**

当法人が所蔵する書画を、ホームページ上でバーチャル墨蹟展として随時公開中。

#### **「特別展覧会」(花園大学歴史博物館と共催)**

デジタルアーカイブス事業の成果として、禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般公開し、美術に関する講演を行なう墨蹟展を花園大学歴史博物館と共同で開催する。

平成27年5月18日から7月11日まで「花岳寺と良哉元明展」を、9月24日から12月12日まで「武蔵野の禅刹 平林寺展」を、何れも花園大学歴史博物館で開催した。

#### **所蔵墨蹟類の保存・修復【50周年関連事業】**

研究所所蔵墨蹟のうち、今後の展覧に耐えられるよう、とくに傷みがひどい優品を優先し、数年かけて修復する。今年度は「渡唐天神」、大愚宗築「本立道生」、「虎溪三笑図」を修復した。

#### **黒豆データベース公開事業**

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきた

ものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。但し、今年度の追加登録はなし。

### 誠拙周樗禅師墨蹟資料収集

大本山円覚寺中興大用国師誠拙周樗禅師 200 年遠諱（平成 31 年正当）に合わせ、円覚寺の依頼により、共同で禅師の書画墨蹟資料を収集し、情報を整理した上で墨蹟集を刊行する。今年度は円覚寺派以外の全国の臨済宗寺院に調査票を送付し、墨蹟等の所在確認を行ない、所蔵が判明した寺院には再依頼をして資料写真を提供いただいた。集まった資料は、整理して円覚寺に送付した。現在、円覚寺にて、掲載予定資料を選定中。

### 問い合わせに関する回答

資料の出典や解説等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられる。それらの回答に無料で応じた。文書で行なった回答には以下のような質問が寄せられた。

開蓮忌の塔婆に書く「世実危衰無牢固者」について（個人）／「柳緑花紅真面目」の出典について（個人）／孤篷庵蔵の春屋宗園の賛がある小堀遠州の像について（個人）／「有信無解長無明、有解無信長邪見」の出典について（寺院）／歩歩是道場の意味（読売新聞）／法燈国師、三光国師と福島県安養寺について（個人）／『日工集』に見える「高麗布」について（企業）／仙厓の臨終の言葉の出典（個人）／所有している遂翁元盧の墨蹟について（個人）ほか、墨蹟や落款の読みなどを含め 40 件。その他電話による質問多数。

## 3. Wikipedia のデータ修正・登録事業

インターネット上の電子辞書サイト(Wikipedia)の、禅や禅文化に関係する部分を見直し、データの修正などを行なった。

## 〈3〉 広報・普及活動

### 1. 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は以下の号数を発行した。

236 号 特集「衆生と向き合う禅僧」

237 号 特集「大拙・寸心両居士の禅思想点描」

238 号 特集「武蔵野の禅刹平林寺」平林寺 300 部購入。

239 号 特集「慕願す、臨済録」

主な配布先は寺院、一般、花園大学後援会など。購読会員数 3,030 名。

### 2. 研究成果の刊行

#### 日本禅宗史・禅語録研究班の成果

①『白隠和尚 荊叢毒蘂』乾坤 芳澤勝弘 (平成 27 年 4 月刊行)

初版 1000 部。白隠禅師 250 年遠諱記念として発行

②新装版『雲水日記』佐藤義英 (平成 27 年 11 月刊行)

初版 1500 部 コンパクトなサイズに変更し解説も改めて発行。平林寺 500 部購入。

- ③『一休骸骨 図版と訳注』 柳田聖山＋早苗憲生 (平成 27 年 11 月刊行)  
初版 500 部 長らく絶版となっていた旧版を廉価版として復刻。
- ④『新編 白隠禅師年譜』 芳澤勝弘 (平成 28 年 3 月刊行)  
初版 800 部。白隠禅師 250 年遠諱記念として発行

#### 禅宗經典研究班の成果

- ①【重版】 『臨濟宗檀信徒經典』12 刷 5000 部  
②【重版】 『臨濟宗檀信徒經典 CD』4 刷 1000 部

#### マルチメディア研究班の成果

- ①2016 年禅語こよみ 靈源慧桃禅師画賛 (平成 27 年 9 月刊行)  
初版 50,000 部 禅のこころを生かしたミニ・カレンダー。
- ②オリジナル「禅の葉」 5ヶ寺より受注
- ③【重版】 『一休道歌』2 刷 1000 部

#### その他

- ①『禅文化研究所研究紀要 33 号』 (平成 28 年 3 月刊行)  
前号より電子版 (PDF) としホームページ上で無償配布しているが、各派宗務本所や交換先など一部は紙媒体で配布している。

### 3. 公開講義「禅思想の諸問題」 [講師 西村恵信 (所長・花園大学名誉教授)]

所長による講義で、『信心銘關義解』全 3 卷 (中峰明本著) をテキストに一般社会人を対象に禅の基本思想を平易に教える。毎週火曜日開催を原則とし、今年度は 41 回開催した。約 20 名が参加。

### 4. ホームページの運営とコンテンツの充実

#### 禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの充実

ホームページのコンテンツ更新を行なった。また連動している臨黄ネット御用達市場にある「禅文化研究所オンラインショップ」の商品登録なども行なった。

#### 臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨濟禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行なった。また現在展開されている「臨濟禅師 1150 年・白隠禅師 250 年遠諱事業」のページを更新した。

### 5. 公開講演会等

#### 公開講演会

『平林寺展』の記念講演会として、下記の 2 回の講演会を実施した。

- ◆平成 27 年 10 月 14 日 (水) 13:00~14:30  
「平林寺に関わった名僧」 竹貫元勝 (花園大学名誉教授)
- ◆平成 27 年 11 月 18 日 (水) 13:00~14:30  
「平林寺の伽藍と境内」 松竹寛山 (平林僧堂師家)

#### 教化・運営の実践講座(サンガセミナー)

寺院の公益性が求められるなか、僧侶や寺族が、より踏み込んだ知識や技能を身につけ、寺院の活性化につなげるための実践講座。平成 27 年度は京都で 9 のセミナーを開講し、

一般も含めのべ 126 名が受講した。また、鎌倉円覚寺では円覚寺派の住職研修会とあわせて 3 講座を開催、円覚寺派僧侶以外に 27 名が参加。大分でも万寿寺をお借りして「涅槃図お絵解き講座」を実施し、近隣の僧侶や檀信徒が多く参加され、好評のうちに修了した。

## 6. 広報・普及

研究成果としての刊行物を、各種媒体を通して広報し、直販、寺院売店、書店の各ルートを通じて普及促進した。また、ブログ禅、メールマガジンの発行、あるいは Twitter や Facebook などを利用して、より広範囲に普及した。今年度も一般向けの新刊点数が少なかったことから書店への積極的な営業活動ができなかった。ただし、沼津市で行なわれる『白隠塾フォーラム』に 2 度出展し、関連書籍の販売を行なったほか、五島美術館（東京都）で行なわれた特別展「一休」で、ショップでの販売を行なった。

現在、売店等で頒布を依頼している本山・寺院は以下の通り（業者委託分含む）。  
妙心寺（花園会館）／建長寺／方広寺／永源寺／天龍寺／相国寺（承天閣美術館）／建仁寺／佛通寺／龍安寺（妙心）／鹿苑寺（相国）／慈照寺（相国）／高台寺（建仁）  
神勝寺（広島・建仁）／酬恩庵（京田辺市・大徳）／龍潭寺（静岡・妙心）／東慶寺（鎌倉・円覚）／湯木美術館（大阪）

## II. 収益・共益等事業

### 〈1〉ソフト開発・販売等事業

#### 1. 宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心に仏教諸宗への販売促進。DM（ダイレクトメール）やネット上のアドワーズ広告等を行なった。最新の Windows10 にも既に対応済み。また、擔雪Ⅲの開発検討に入った。

#### 2. オーダー型管理システムの構築

##### 妙心寺派管理システムの運用サポート

保守契約によるシステム保守を行なった。

##### 相国寺資料目録DBの構築

共益事業で受託している相国寺資料の整理に伴い、整理した資料のデータベースを閲覧するためのシステムを納品済み。保守契約によるシステム保守を行なった。

##### 南禅寺派管理システムの機能追加

システムの機能追加要望に対応した。

##### 建長寺派管理システムの機能追加と運用サポート

システムの機能追加要望に対応した。

##### 曹洞宗宗務所管理システムの開発と運用サポート

保守契約によるシステム保守を行なった。京都に続き、福井県宗務所のシステムを開発し納品した。

##### 天龍寺派管理システムの運用サポート

システムの機能追加要望に対応した。

### 佛通寺派管理システムの運用サポート

保守契約によるシステム保守を行なった。

### ⑧真言宗神奈川宗務支所システム開発

保守契約によるシステム保守を行なった。

### ⑨青蓮院管理システムの運用サポート

システムの機能追加要望に対応中。平成 28 年 6 月納品予定。

### ⑩藏春寺管理システムの運用サポート

システムの開発に対応中。平成 28 年 6 月納品予定。

## 3. 宝物管理システム「禅の至宝」Windows 版の開発と販売

一般寺院がデジタルアーカイブデータを管理するための宝物管理システム「禅の至宝」Windows 版の開発を行ない発売中。今年度販売数は 8 セット。また、調査を行なった恵林寺と平林寺の宝物を「禅の至宝」SA 版に入力し納品した。

## 4. 蔵書管理システム

すでに開発完了し販売している、寺院等で所蔵される大量の書籍を管理するためのデータベースシステムを、公益事業にある大本山相国寺所蔵資料の整理業務の終了にあわせて、相国寺に納品済み。

## 5. 出版物頒布

他社から委託を受けた禅に関する出版物をホームページやDMなどで案内し頒布した。主な取扱い品：「日本の心 日暦」・「茶禅一如 日暦」・「干支色紙」（以上千真工芸）、「見てわかる仏事」（臨済宗青年僧の会）、「無文老師法話集」（アートディズ）、「送喪儀」（連合各派布教師会）、「望月仏教大辞典」（方丈堂）、「よくわかる絵解き涅槃図」（青山社）、「いろはにほへと（一、二、三）」（黄梅院）等

## 〈2〉 共益事業

### 1. 臨黄合議所事務局

#### ○年間会議

平成 27 年 4 月 30 日（木） 理事会（相国寺派宗務本所）

平成 27 年 9 月 4 日（金） 総会（相国寺派宗務本所）

平成 27 年 10 月 6 日（火） 移動理事会（大本山方広寺）

平成 28 年 1 月 19 日（火） 理事会（京都東急ホテル）

#### ○臨済禅師 1150 年・白隠禅師 250 年遠諱事業

##### 1. 臨済禅師・白隠禅師報恩坐禅会

平成 27 年 3 月より 6 月まで、全国 25 の本山・専門道場を会場に実施した。

##### 2. 第 2 回記念企画「What is Zen? 一禅ってなに？」

平成 27 年 5 月 31 日（於 六本木アカデミーヒルズ）

基調講演、鼎談のほか、坐禅や瞑想、写経などの各講座を開催した。

##### 3. 雲衲報恩大接心 平成 28 年 3 月 4 日～9 日（於 大本山東福寺）

全国 36 僧堂より 222 名の雲衲が参加。会中には 7 回の参禅、3 回の講座、そして托鉢

等を行なった。

4. 遠諱大法要 平成 28 年 3 月 9 日 宿忌・10 日 半齋 (於 大本山東福寺)

宿忌には僧俗合わせ 350 名が参列した。

5. 『臨濟宗黄檗宗宗学概論』の編集業務

臨濟宗黄檗宗を理解する教科書的な内容。

6. 遠諱のことをひろく一般に紹介するためのリーフレット「禅ーいまを生きるー」の作成。遠諱とはなにか、臨濟禅師・白隠禅師の紹介、正しい坐禅の組み方を掲載。

○「臨黄会報」の発行 (43 号・44 号)

○臨黄互助会の促進

○中国仏教界との交流 (日中臨黄友好交流協会)

○会議等の事務処理

## 2. 引導法語データベースの公開

妙心寺派教学部と共同で制作した臨黄ネット寺院会員サイト内にある「引導法語データベース (332 法語)」を公開している。